

半年間の経営塾(全8回)で磨いた

経営理念と行動計画を発表

京都農業経営塾

京都農業経営塾の受講生9人が半年間(全8回)の研修でブラッシュアップした経営理念と事業計画を発表し、その実現に向けて「経営者としての挑戦」を開始した。

受講生らは会場にパソコンを持ち込み、1人8分の制限時間で、経営者の表。講師や先輩経営者(過年度の受講生)の現状分析、収支の改善

の経営計画の優先順位やスケジュールの確認と再検討を行った。
50人が卒業し各地で活躍中
京都府農業会議が主催する京都農業経営塾は、これまでに50人が卒業。京都府農業を支える経営者として府内各地で活躍しており、今回卒業した第6期生の経営者としての今後の成長が期待される。

各ブロックの取り組みや女性登用促進などで交流

きょうと女性農業委員 推進委員の会

きょうと女性農業委員・推進委員の会(山下明子会長、会員62人)は、2月27日、京都市内で総会と研修交流会を開いた。総会では、次期委員改選で女性委員を増やす取り組み強化などを盛り込んだ来年度の活動計画を決定。研修交流会では、出席した委員(36人)が府内5ブロックに分かれて各農業委員会の活動報告や今後の取り組みについての意見交換を行った。

研修会では、京丹波町農業委員会の永武幸子専門幹が講演。「委員会の活動を前進させるには、委員と事務局がお互いにコミュニケーション力を発揮し、協力関係を築くことが不可欠」と訴えた。また、意見交換では、女性委員を増やすため、各委員会で行われた。

3月上旬に開催された各農業委員会の定例総会では、参加した委員から研修会の報告が行われ、各委員会でも共有された。



本年度の塾生9人が修了式で経営者としての飛躍を誓った(2月25日)

京都府農林水産技術センター ほくとニエース

茶業研究所

茶業研究所では、製茶経験が浅い茶農家でも熟練者のような高品質の(宇治茶スキャン)を作

熟練の技を数値化、 てん茶製造をアシスト

宇治茶スキャン

ん茶を製造できる製茶アシストツールの開発に取り組んでいる。生葉の状態にあわせて製茶機械を調節する「熟練の技」を数値化するため、特定波長で生葉を撮影し、摘採芽の繊維含有量を簡単



宇治茶スキャンのイメージ図

に測定できる器械を開発。次に、生葉の硬さの主因である繊維含有量に応じた製茶条件(適蒸設定、適乾燥設定)を自動的に算出するシステム(宇治茶スキャン)を作



今後の活動について話し合う女性委員(2月27日)

お知らせ

今回の京都府版は5月30日まで
新年度から本紙の地方版の発行体制が変わり、

毎月1回(第4週)発行の京都府版は2カ月に1回の隔月発行に移行します。4月25日は地方総合版となりますので、次回(5月30日)の京都府版は5月30日にお届けします。

京都

京都府支局
京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2
府庁西別館内
075・441・3660

地区外の農家と協力して農地を守る



女性委員が



“つないで発信”

地域計画の策定に向けて地図で他地区の農業委員と情報交換

2023年7月に農業委員に就任して1年8カ月が過ぎました。茶業が中心の和束町では急傾斜の茶園が多く、茶農家の高齢化と担い手不足が進んでいます。私が担当する機原地区でも、地区内の農家への農地集積が難しくなったので、町内の他地区の農家と茶園を貸借することで、何とか守っています。そのため、他地区の農業委員との連携が大切になります。

茶業を一人で始めるのは難しいので、いきなり新規就農者が増えることにはないと思います。今後とも委員同士の情報交換や意見交換を続けながら、和束町の農業振興に貢献できるよう活動していきたいです。

(和束町農業委員会・西川菜央委員)

農deまらまら

京丹後市 山下 明治さん

必要としている人に 必要なものを届けたい



2020年に東京から京丹後市宇川地域に移住した山下明治さん(33)。3年間、オーガニックを体験し、「自分でも環境に優しい農業をしたい」という想いを抱いて、父親の故郷で就農を決めた。

コシヒカリ、日本晴、古代米など水稲を2畝栽培。手間をかけて稲木で天日干しを行い、お米の甘みを引き出すという。



古代米

新米の時期になると、オーガニックに興味がある方からたくさん連絡が届く。海外の料理人からオーガニック食材を求められることもあり、「必要としている人に届けることが大切」と実感している。

「日本の食文化を支える農家であることを誇りに思いながら農業を続けていきたい」と抱負を語った。

(京丹後市農業委員会)